

# 民主青年新聞

●ホームページ www.dylj.or.jp ●Eメール minsin@dylj.or.jp

見どころ

「文通費」と「政党助成金」 国民の理解得られる制度に (3面)  
なぜ学ぶ? どう生かす? 民主主義って何だろう? (6、7面)  
憲法9条の持つ力——運動を広げ、改憲ストップを (10、11面)

## 学生のための真の就活制度を

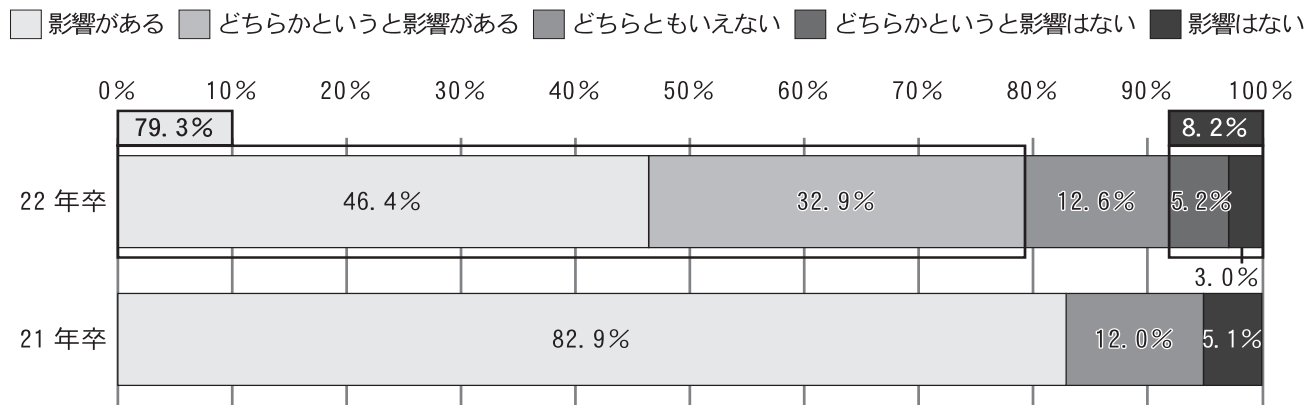


▶オンライン面接のイメージ(写真と本文は関係ありません)

新型コロナウイルス感染症は、大学生の就職活動にさまざまな影響を与えています。2022年春に就職する学生や23年春に卒業予定の学生に、コロナ下での就活の経験について聞くとともに、企業の採用活動そのものについても青年と一緒に考えます。  
(文中は一部仮名、塩田悠玄記者)

## コロナ下での就活の実態から考える

コロナウイルスの感染状況は自身の就職活動に何らかの影響があると思うか



「マイナビ 2022年卒 大学生 活動実態調査 (3月1日)」(調査期間 2021年3月1~3日、2022年3月卒業見込みの全国大学3年生、大学院1年生対象、有効回答3513名)を基に作成

### 性 オンライン面接の二面

大手就職サイトを運営する企業のアンケート調査では、約8割の学生が新型コロナウイルスによって自身の就職活動に何らかの影響があると回答(左グラフ)。新型コロナウイルスは就活のこれまでの形「ほとんどの会社がオンライン面接を受けてきました。」

「就活時期に真をまたいで移動することが厳しかったから、OG・OB訪問もできず、情報収集が大変だった」とも振り返ります。来年の春からプログラマーとして就職する予定の佐々木純一さん(大学5年)は、コロナ前の3年生の時にも就活を経験しており、オンライン面接が進んだことでよかった点も感じています。「コロナ前は対面が普通だったので、東京から地方都市まで(自費で)行かなければならなかったが、オンラインで全てが完結するようになった。画面共有で自分のつくったプログラムなども見せやすくなった」と佐々木さん。一方「面接を受けた会社のオフィスに実際に行くことができなくなったので、会社の雰囲気や、どんな人が働いているのかなどをつかんだりできなくなった」とも話しました。

2023年の春卒業・就職を目指す学生が、就職活動の準備を進める中、オンライン面接の増加が大きな変化の一つとして挙げられています。溝口さんは、「コロナ前は状況が大きく変わる可能性がありました。学生を取り巻く状況の大きな変化が、側面から理解しつづ、今までの就活にはなかった「企業は『コロナでも自分で動ける人がほしい』と言います。(2面につづく)

### 「ガクチカ」がない

コロナの影響で、「学生が、動ける学生なんていない」と話します。2年生は「何ですか?」という面接からコロナの影響を受けた質問、いわゆる「ガクチカ」がなくなったと溝口さん。「2、3年のほとんどは、コロナ後は薄くなったこともあって、『ガクチカ』がそもそも存在してない」と強調しました。依然としてコロナ前の水準に戻らない内定率や、採用数の大幅削減に踏み切った観光・交通業界や飲食業界の厳しい現状など、今後のコロナの広がりに次第で



▲渋谷の街頭を歩く就活生(写真と本文は関係ありません)